



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月30日

上場会社名 富士急行株式会社
 コード番号 9010 URL <http://www.fujikyuu.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)堀内 光一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員IR推進室長兼経営管理部長 (氏名)和田 一成 TEL 0555-22-7120
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	25,559	6.2	3,402	13.0	2,996	16.1	1,774	27.1
25年3月期第2四半期	24,065	6.7	3,010	31.8	2,581	43.7	1,396	42.4

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 1,895百万円(39.7%) 25年3月期第2四半期 1,357百万円(37.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	16.72	—
25年3月期第2四半期	13.16	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	91,479	19,140	20.2
25年3月期	89,881	17,784	19.1

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 18,454百万円 25年3月期 17,139百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	5.00	5.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,200	5.6	3,800	10.8	2,800	9.3	1,350	4.7	12.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

26年3月期2Q	109,769,477株	25年3月期	109,769,477株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	3,583,847株	25年3月期	3,578,965株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

26年3月期2Q	106,188,696株	25年3月期2Q	106,118,729株
----------	--------------	----------	--------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期におけるわが国経済は、円高是正による外国人旅行客の増加や企業業績の回復、更には株価上昇など、ようやく明るい兆しが顕著になってまいりました。

このような状況のなか、当社グループは、運輸、不動産、レジャー・サービス、その他の各事業にわたり、積極的な営業活動と経営の効率化に努めてまいりました。特に「2013富士芝桜まつり」は、収益増に大きく貢献いたしました。また、6月の富士山世界遺産登録決定以降、富士山及び周辺への注目度の高まりと共に当社グループの利用者数も運輸部門を中心に増加いたしました。

この結果、当第2四半期の営業収益は255億59百万円（前年同期比6.2%増）、営業利益は34億2百万円（同13.0%増）、四半期純利益は17億74百万円（同27.1%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(運輸業)

本年6月に富士山が世界遺産に正式登録されたことに伴い、鉄道事業、バス事業ともに新規需要開拓と輸送力の強化に努めました。

鉄道事業では、3月のダイヤ改正にあわせた大月～河口湖間の乗入れ本数の増加や、沿線の野外音楽施設におけるコンサート開催時には、タイアップした装飾や記念入場券の発売を行い、利用促進と増収に努めました。また、JR東日本との連携強化により「富士芝桜まつり」開催時にはJR中央線からの直通列車の増発、夏季シーズンは「世界遺産・富士山フリー乗車券」、「Mt. Fuji Round Trip Ticket」を発売し、集客に努めました。

乗合バス事業では、7月には富士山を訪れる国内外のお客様のために、路線バス計14路線が2日間乗り降り自由の「富士山世界遺産めぐりきっぷ」を販売開始し、また、富士山登山口のマイカー規制期間の延長に伴い、最寄駅からの増便設定や臨時駐車場からのシャトルバス輸送を行い、富士山への来訪者の輸送力強化に努めました。

高速バス事業では、7月には中央高速バス「新宿～富士五湖線」下り便の深夜便を新設、また、「新宿～富士山五合目線」を増便したほか、「横浜～河口湖線」を富士山五合目まで延伸し、利便性の向上に努めました。

貸切バス事業では、前年より引き続き好評を博している水陸両用バス「YAMANAKAKO NO KABABA」の2号車を4月に導入いたしました。9月には公益社団法人日本バス協会による「貸切バス事業者安全性評価認定制度」で、富士急行他6社が2つ星認定を獲得いたしました。

なお、自然環境保全の方針に則り、CNG（圧縮天然ガス）車両やハイブリッド車両の低公害バス車両13両を導入しております。

以上の結果、ハイヤー・タクシーなどの各事業を含めた運輸業全体では、営業収益は84億15百万円（前年同期比3.5%増）となり、営業利益は9億68百万円（同29.2%増）となりました。

(不動産業)

不動産販売事業では、山中湖畔別荘地において「祝！富士山世界遺産登録記念キャンペーン～富士山が見える別荘特集～」と題した販売促進キャンペーンを展開、引き続き大人の趣味・嗜好を追求できる「ガレージハウス山中湖」などの「コンセプト・ヴィラ」シリーズの他、好評の「山中湖の森シリーズ」に「陽だまりの森」・「もえぎの森」の各新商品を加え、お客様に訴求効果の高いWebサイトを核にした積極的な販売活動を展開し、大型注文建売別荘の受注および商品土地の販売に努めました。

また、別荘オーナーを対象に、サロンコンサート・自然観察会などのイベントに加え、「富士山世界遺産を巡る富士山講座」を開催した他、地域および出版社と一体となり、屋外バーベキューイベントとして「Garden Style Party」を開催しました。

別荘オーナーに定着した「夏季オーナーズバス」についても、乗客のニーズにあわせ停留所新設・増便を行ない、CSの向上と別荘地からの情報発信に努めました。

不動産賃貸事業では、御殿場市において、8月から家電量販店に新築建物の賃貸を開始するなど、土地の有効活用を図るとともに、賃貸施設の改修などを行い収入の確保に努めました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は14億8百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益は3億98百万円（同6.2%増）となりました。

(レジャー・サービス業)

遊園地事業では、7月富士急ハイランドにフランス生まれの人気キャラクター「リサとガスパール」の入場無料のテーマパーク「リサとガスパール タウン」を新設し、新たな需要の創出と魅力向上に努めました。

富士南麓の遊園地「Grinpa」では、7月に立体カラクリ迷路「ココドコ」がオープンし好評を博しました。

「さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト」においては、3月の「さがみ湖温泉 うりり」の開業により更にエリアの魅力が増し、7月には8つの仕様・難易度の異なるバラエティに富んだ迷路群「迷路百貨店」などがオープンし集客に努めました。

ホテル事業では、ハイランドリゾート ホテル&スパにおいては、7月には「リサとガスパール タウン」の開業にあわせて、リサとガスパールをテーマにしたキャラクタールームやレストランの営業を開始し集客に努めました。熱海シーサイド スパ&リゾートは、露天風呂付き客室や洋室へのリニューアルとリーズナブルな価格が奏功し、多数のお客様にご利用いただきました。

富士本栖湖リゾートにおいては、「2013富士芝桜まつり」について、抜本的な土壌改良や地域特性を踏まえた花苗植え替え等万全の体制をとり、4月13日から6月2日まで開催し、この間多くの話題を集めることができ、過去最高の約43万人のお客様にご来場いただきました。

以上の結果、ゴルフ場事業等を含めたレジャー・サービス業全体の営業収益は137億73百万円（前年同期比6.0%増）となり、営業利益は19億88百万円（同9.9%増）となりました。

(その他の事業)

製造販売業においては、株式会社レゾナント・システムズで国土交通省認定ドライブレコーダーなどの交通機器の販売が順調に推移したものの、富士ミネラルウォーター株式会社では、非常用保存水において防災業者の大口受注が減少したこと等により、その他の事業全体の営業収益は、38億34百万円（前年同期比7.2%減）、営業利益は79百万円（同34.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて15億97百万円増加し、914億79百万円となりました。

また、負債は、未払法人税等の増加などにより、前連結会計年度末に比べて2億42百万円増加し、723億39百万円となりました。なお、借入金は、長短合計で6億63百万円減少しております。

純資産合計は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて13億55百万円増加し、191億40百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ10億42百万円増加し、120億31百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益28億65百万円、減価償却費25億40百万円などにより、57億33百万円の資金収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより、30億46百万円の資金支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済などにより、16億43百万円の資金支出となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の業績予想につきましては、平成25年5月8日に公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,059,027	12,101,629
受取手形及び売掛金	2,790,089	2,021,234
分譲土地建物	8,347,379	8,341,691
商品及び製品	540,466	548,366
仕掛品	18,953	23,588
原材料及び貯蔵品	583,802	624,942
未成工事支出金	173,255	157,135
繰延税金資産	186,226	230,414
その他	938,627	1,005,917
貸倒引当金	△14,210	△12,020
流動資産合計	24,623,617	25,042,900
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	27,753,205	28,685,627
機械装置及び運搬具(純額)	5,205,041	4,957,056
土地	16,243,423	16,328,447
リース資産(純額)	3,852,859	3,843,018
建設仮勘定	798,741	892,359
その他(純額)	1,444,350	1,492,104
有形固定資産合計	55,297,622	56,198,613
無形固定資産		
投資その他の資産	3,085,196	3,214,563
投資有価証券	5,028,721	5,174,194
繰延税金資産	449,468	392,333
その他	1,421,347	1,480,596
貸倒引当金	△24,432	△23,832
投資その他の資産合計	6,875,104	7,023,291
固定資産合計	65,257,923	66,436,468
資産合計	89,881,540	91,479,369

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,089,375	1,981,457
短期借入金	23,205,399	15,683,740
リース債務	888,298	952,117
未払法人税等	810,331	1,077,300
賞与引当金	412,665	424,976
役員賞与引当金	6,500	—
その他	4,110,599	4,557,508
流動負債合計	31,523,169	24,677,099
固定負債		
長期借入金	31,657,198	38,514,985
リース債務	3,210,510	3,162,159
退職給付引当金	999,926	976,815
その他	4,706,298	5,008,086
固定負債合計	40,573,933	47,662,046
負債合計	72,097,103	72,339,145
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,126,343	9,126,343
資本剰余金	3,415,942	3,415,942
利益剰余金	5,679,080	6,924,390
自己株式	△1,491,517	△1,496,213
株主資本合計	16,729,848	17,970,462
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	410,021	484,168
その他の包括利益累計額合計	410,021	484,168
少数株主持分	644,567	685,592
純資産合計	17,784,437	19,140,223
負債純資産合計	89,881,540	91,479,369

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業収益	24,065,031	25,559,702
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	20,542,325	21,631,089
販売費及び一般管理費	512,194	525,966
営業費合計	21,054,520	22,157,056
営業利益	3,010,510	3,402,645
営業外収益		
受取利息及び配当金	28,460	29,191
持分法による投資利益	35,279	40,716
雑収入	98,172	59,312
営業外収益合計	161,912	129,220
営業外費用		
支払利息	549,932	500,588
雑支出	41,172	34,681
営業外費用合計	591,105	535,269
経常利益	2,581,318	2,996,596
特別利益		
固定資産売却益	1,146	1,369
補助金	25,326	1,110
受取補償金	105,371	17,839
特別利益合計	131,844	20,318
特別損失		
投資有価証券評価損	49,390	—
固定資産圧縮損	25,140	1,110
固定資産除却損	319,490	149,836
特別損失合計	394,022	150,946
税金等調整前四半期純利益	2,319,140	2,865,969
法人税、住民税及び事業税	927,740	1,066,505
法人税等調整額	△46,817	△22,400
法人税等合計	880,922	1,044,104
少数株主損益調整前四半期純利益	1,438,218	1,821,864
少数株主利益	41,305	46,915
四半期純利益	1,396,912	1,774,949

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,438,218	1,821,864
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△72,724	75,222
持分法適用会社に対する持分相当額	△8,480	△1,380
その他の包括利益合計	△81,205	73,842
四半期包括利益	1,357,012	1,895,707
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,316,400	1,849,096
少数株主に係る四半期包括利益	40,612	46,610

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,319,140	2,865,969
減価償却費	2,481,859	2,540,863
固定資産除却損	243,368	28,458
固定資産圧縮損	25,140	1,110
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2,470	△2,790
賞与引当金の増減額 (△は減少)	9,260	12,311
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△6,500	△6,500
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△15,495	△23,110
受取利息及び受取配当金	△28,460	△29,191
支払利息	549,932	500,588
持分法による投資損益 (△は益)	△35,279	△40,716
固定資産売却損益 (△は益)	△1,146	△1,369
投資有価証券評価損益 (△は益)	49,390	—
補助金収入	△25,326	△1,110
受取補償金	△105,371	△17,839
売上債権の増減額 (△は増加)	651,457	768,855
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△204,890	△31,866
仕入債務の増減額 (△は減少)	△55,941	△107,917
その他の資産・負債の増減額	189,036	462,257
小計	6,037,704	6,918,001
利息及び配当金の受取額	40,243	40,974
利息の支払額	△553,161	△506,264
補償金の受取額	105,371	81,513
法人税等の支払額	△192,166	△800,868
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,437,992	5,733,357
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,500	—
定期預金の払戻による収入	5,309	315
補助金の受取額	450,371	551,660
有形固定資産の取得による支出	△2,914,787	△3,581,390
有形固定資産の売却による収入	1,168	1,381
投資有価証券の取得による支出	△961	△976
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	1,184	△17,449
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,460,216	△3,046,459
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	820,000	44,200
長期借入れによる収入	4,290,000	11,394,000
長期借入金の返済による支出	△4,793,674	△12,102,072
リース債務の返済による支出	△390,348	△440,128
自己株式の取得による支出	△634	△4,696
自己株式の売却による収入	251	—
配当金の支払額	△528,594	△529,698
少数株主への配当金の支払額	△3,984	△5,585
財務活動によるキャッシュ・フロー	△606,985	△1,643,980
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,370,790	1,042,917
現金及び現金同等物の期首残高	10,225,958	10,988,112
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,596,749	12,031,029

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に 対する営業収益	8,100,347	1,172,874	12,705,822	21,979,044	2,085,986	24,065,031	—	24,065,031
セグメント間の 内部営業収益 又は振替高	30,875	251,506	288,644	571,026	2,045,907	2,616,934	△2,616,934	—
計	8,131,223	1,424,380	12,994,466	22,550,071	4,131,894	26,681,965	△2,616,934	24,065,031
セグメント利益	749,580	375,415	1,808,392	2,933,388	121,604	3,054,993	△44,482	3,010,510

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△44,482千円には、セグメント間取引消去△26,052千円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に 対する営業収益	8,376,954	1,166,684	13,464,668	23,008,307	2,551,394	25,559,702	—	25,559,702
セグメント間の 内部営業収益 又は振替高	39,029	241,810	308,492	589,332	1,282,608	1,871,941	△1,871,941	—
計	8,415,984	1,408,494	13,773,161	23,597,640	3,834,002	27,431,643	△1,871,941	25,559,702
セグメント利益	968,182	398,692	1,988,215	3,355,090	79,138	3,434,228	△31,582	3,402,645

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△31,582千円には、セグメント間取引消去△26,105千円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。